横浜市立緑小学校
平成２８年度　学力向上アクションプラン

1　中期学校経営方針

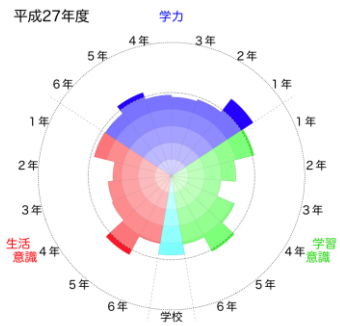
（1）学校経営中期取組目標

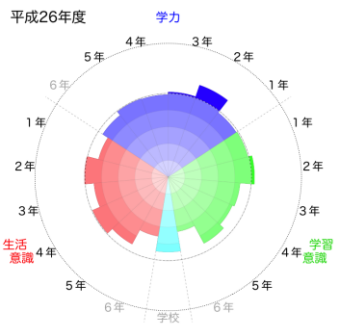
学 校 経 営 中 期 取 組 目 標
○「学び合い　みとめ合う」だれもが、自分が認められているという安心感のある学校・学級づくりを実現します。 ○子どもたちが学ぶことの楽しさを実感し、主体的に学習に取り組むことができる授業づくりを推進します。 ○「ひと・まち・もの」とのふれあい、関わりを大切にし、お互いに支え合い、お互いのよさに気づく心の成長を図ります。 ○学校の教職員全員が学校運営を意識し、一緒に取り組んでいこうとする姿勢や気持ちを大切にした学校組織体制を作り上げます。 ○小中一貫教育ブロックや家庭・地域・関係機関との交流・連携を深め、共に子どもたちを育てていくことができる開かれた学校づくりを進めていきます。

（2）学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取 組 目 標	具 体 的 取 組
確かな学力 （学習指導）		勉強が「好き」「やりとげた」と思う子どもを増やすために、子どもの興味・関心を引き出すような授業を行い、市学習調査の学習意識を２ポイント向上させる。	①言語活動を授業に位置付け、自分の考えを表現・交流する授業を行う。 ②自他を認め合い、生かし合う授業を行い、自尊感情を高める授業を行う。 ③家庭学習で繰り返しの練習を行ったり、算数少人数・習熟度別指導を行ったりすることにより、学習の定着を図る。④解決の見通しをもつように、めあてやまとめを黒板に提示する。
担当	研究研修部		

2　横浜市学力学習状況調査等からの実態把握





（1）学力の概要と要因の分析

全体的には、横浜市の平均的な学力である。しかし、学習意識及び生活意識においては、市の平均よりも低い状況にある。生活意識では、「勉強が好きではない」と答えている子どもが２～３割程度存在する。「授業が分からない」という回答も市の平均の回答に比べて多い。学習意識・生活意識の高い学年は、学力のポイントが高い。楽しく分かりやすい授業づくりが求められていると考える。

（2）教科学習の状況

○ 国語科：話す・聞く能力は３つの学年で市の平均をやや上回る。昨年の重点研の成果が出ている。
○ 算数科：「技能」は３つの学年で市平均を上回っている。「知識・理解」は２つの学年で市平均を下回っている。
○ 社会科：どの学年もどの能力も市平均とほぼ同じ。
○ 理　科：どの学年も「思考・表現」は市の平均を下回っている。

（3）経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

昨年に比べ、学力は少し伸びているが、学習意識や生活意識は低くなっている。学年が進むにつれて内容が難しくなり、「勉強が好き」や「勉強が分かる」が減り、苦手意識が生まれているようである。また家での勉強が減っている学年は学力が伸びていないようである。読書やあいさつについては、学校の重点目標であったため、市平均を上回る学年が多いようだ。また、「自分のよさ」に気づいていない子どもが多く、自信のなさがみられる。ほめることを意識して指導することが大切である。

３　平成２８年度　学年・教科等としての具体的取組

１学年

○算数や国語では、基礎基本を大切にし、繰り返しの指導で基礎学力の定着を図るようにする。
○体験活動を多く取り入れ、自然や身近な人と多く触れ合うことにより、自然の素晴らしさや自分のよさ・友達のよさに気付き、生活を楽しく豊かにしていこうとする態度を養う。
○読書活動を多く取り入れるとともに、文章を読むときには、自分の経験と結び付けて、自分の考えや思いをもてるようにする。

２学年

○国語では、理解したことを実際の文章の中で使えるように、書くことを大切にしていく。自分の経験を生かして、感想や考えをもつように指導する。音読や動作化等、様々な表現を取り入れながら、理解を深めていく。
○算数の基礎基本を大切にし、教材の工夫をして学力の定着を図る。
○体験を通して自分の生活について考えられるよう報告する文章や説明する文章を書く等表現活動を大切にする。

３学年

○社会科等で見学・調査したことを説明する文章、理科等で観察・考察したことを記録する文章を書くなどの表現活動を大切にするとともに、話合いをする場面を位置付ける。
○文章を読んだり話を聞いたりすることを通して自分の考えをもち、他者との感じ方・考え方の違いに気づけるよう指導する。
○理由や根拠を尋ねたり、まとめたり補足したりしながら話し合うように指導する。

４学年

○国語等で相手の考えをとり入れたり、自分の意見を述べたりすることを大切にし、話し合いの場面を位置付ける。
○理科・社会等で資料から読み取る力や事象について関連付けて考える力を大切にするとともに、表現活動を充実させる。
○学習内容が切実性をもてるよう、児童の身近なものを教材に取り上げ、興味関心を高めるように指導する。

５学年

○国語や算数では、読み・書く・計算等の基礎基本を大切にする。繰り返しの指導や、学年統一の家庭学習を行い、基礎学力の定着を図る。
○どのような場面においても、問題解決的な場面を多く取り入れ、児童の学習に対する興味・関心を高め、意欲的に課題解決に取り組めるようにする。
○読書活動の機会を多く取り入れるようにする。意見を述べる文章を書くときや、調べ学習等では、図書資料を活用することで、読書活動の幅を広げるようにする。
○自他の良さや違いに気付き、あたたかい気持ちをもって友達に接していけるようにする。

６学年

○国語等で、事実と感想・意見などの関係を押さえ、その意図を捉えながら自分の考えを明確にする場面を位置付ける。
○観察・資料の読み取りなどを学習に多く取り入れ、関連付けて物事を考えたり、多面的に考えたりする場面をつくるようにする。
○読書活動を取り入れることで、情報活用能力を育てるとともに、読書の楽しさを広めるようにする。

個別支援学級

○個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を位置付ける。
○子どもの発達段階に応じて、各学年の取り組みを参考にし、必要な取り組みを行う。
○子どもに応じた分かりやすい情報発信をするなど、言語環境の整備を行う。